

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年4月25日
【四半期会計期間】	第105期第2四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)
【会社名】	昭和電工株式会社
【英訳名】	Showa Denko K.K.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 森川 宏平
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【電話番号】	03 (5470) 3384
【事務連絡者氏名】	財務・経理部 会計・税務グループリーダー 平井 謙司
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【電話番号】	03 (5470) 3384
【事務連絡者氏名】	財務・経理部 会計・税務グループリーダー 平井 謙司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の一部の海外連結子会社が「定期預金（3ヵ月超）」を保有しておりましたが、連結キャッシュ・フロー計算書の勘定科目（現金及び現金同等物と定期預金による預入・払戻）で誤りが判明したため、その他重要性の観点から修正を行わなかった事項の修正を含め訂正を行います。

これらの訂正により、当社が平成25年8月8日に提出いたしました第105期第2四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

また、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所につき、XBRLデータの訂正を行いましたので、併せて訂正後のXBRL形式のデータ一式（表示情報ファイルを含む）を関連書類として提出します。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

###### (1) 業績の概況

###### (2) セグメントの状況

###### (4) キャッシュ・フローの状況

#### 第4 経理の状況

##### 2 監査証明について

##### 1 四半期連結財務諸表

###### (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

###### 四半期連結損益計算書

###### 第2四半期連結累計期間

###### (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

###### 注記事項

###### (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

###### (セグメント情報等)

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_線を付して表示しております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第104期 第2四半期連結 累計期間	第105期 第2四半期連結 累計期間	第104期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(百万円)	<u>352,313</u>	<u>401,409</u>	<u>739,811</u>
(中略)			
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	2,466	17,076	53,310
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	<u>△19,622</u>	<u>△27,345</u>	<u>△40,209</u>
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	3,335	8,167	△20,150
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	42,198	<u>53,604</u>	<u>51,254</u>

(後略)

(訂正後)

回次	第104期 第2四半期連結 累計期間	第105期 第2四半期連結 累計期間	第104期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(百万円)	<u>352,293</u>	<u>401,265</u>	<u>739,675</u>
(中略)			
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	2,466	17,076	53,310
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	<u>△18,807</u>	<u>△30,340</u>	<u>△41,741</u>
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	3,335	8,167	△20,150
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	42,198	<u>47,646</u>	<u>48,679</u>

(後略)

## 第2【事業の状況】

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

#### (1)業績の概況

(中略)

当第2四半期連結累計期間の連結営業成績については、売上高は主に石油化学セグメントの増収により4,014億9百万円(前年同四半期連結累計期間比13.9%増)となったが、営業利益は、エレクトロニクスセグメントにおけるレアアースのたな卸資産の簿価切下げやハードディスクの数量減に加え、無機セグメントでは黒鉛電極の数量減もあり、67億23百万円(同58.0%減)となった。これを受け経常利益は53億87百万円(同62.6%減)となり、四半期純利益は21億58百万円(同72.6%減)となった。

#### (2)セグメントの状況

(中略)

(化学品)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間の液化アンモニアの生産は前年同四半期連結累計期間に比べ減少した。

基礎化学品事業は、液化アンモニアは前年同四半期連結累計期間並みとなり、アクリロニトリルは市況が低迷し減収となったが、合成ゴム「ショウブレン®」は海外向け数量増により増収となり、総じて増収となった。産業ガス事業、機能性化学品事業は減収となり、情報電子化学品事業は前年同四半期連結累計期間並みとなった。

この結果、当セグメントの売上高は619億21百万円(前年同四半期連結累計期間比1.3%減)となったが、営業利益は基礎化学品事業の改善もあり5億59百万円(同7億70百万円増益)となった。

(中略)

(アルミニウム)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間のコンデンサー用高純度箔の生産は、長期化した顧客業界の生産調整が第1四半期連結累計期間で終了し、第2四半期連結会計期間には需要が増加したため前年同四半期連結累計期間に比べ増加した。

アルミ圧延品事業は、コンデンサー用高純度箔は数量増により小幅に増収となった。アルミ機能部材事業は、レーザービームプリンター用シリンダーは前年同四半期連結累計期間並みとなったがショウティックは減収となり、総じて減収となった。アルミニウム缶は小幅に減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は436億64百万円(前年同四半期連結累計期間比8.2%減)となったが、営業利益はアルミ圧延品事業等の回復もあり29億31百万円(同158.4%増)となった。

(中略)

#### (4)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間に発生したエチレンプラントの設備不具合による影響がなくなったこと等により、前年同四半期連結累計期間に比べ、146億10百万円の収入増加となり、170億76百万円の収入となった。

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ77億23百万円の支出増加となり、273億45百万円の支出となった。

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債(借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債)の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ48億32百万円の収入増加となり、81億67百万円の収入となった。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ23億50百万円増加し、536億4百万円となった。

(訂正後)

(1)業績の概況

(中略)

当第2四半期連結累計期間の連結営業成績については、売上高は主に石油化学セグメントの増収により4,012億65百万円(前年同四半期連結累計期間比13.9%増)となったが、営業利益は、エレクトロニクスセグメントにおけるレアアースのたな卸資産の簿価切下げやハードディスクの数量減に加え、無機セグメントでは黒鉛電極の数量減もあり、67億23百万円(同58.0%減)となった。これを受け経常利益は53億87百万円(同62.6%減)となり、四半期純利益は21億58百万円(同72.6%減)となった。

(2)セグメントの状況

(中略)

(化学品)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間の液化アンモニアの生産は前年同四半期連結累計期間に比べ減少した。

基礎化学品事業は、液化アンモニアは前年同四半期連結累計期間並みとなり、アクリロニトリルは市況が低迷し減収となったが、合成ゴム「ショウブレン®」は海外向け数量増により増収となり、総じて増収となった。産業ガス事業、機能性化学品事業は減収となり、情報電子化学品事業は前年同四半期連結累計期間並みとなった。

この結果、当セグメントの売上高は617億84百万円(前年同四半期連結累計期間比1.5%減)となったが、営業利益は基礎化学品事業の改善もあり5億59百万円(同7億70百万円増益)となった。

(中略)

(アルミニウム)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間のコンデンサー用高純度箔の生産は、長期化した顧客業界の生産調整が第1四半期連結累計期間で終了し、第2四半期連結会計期間には需要が増加したため前年同四半期連結累計期間に比べ増加した。

アルミ圧延品事業は、コンデンサー用高純度箔は数量増により小幅に増収となった。アルミ機能部材事業は、レーザービームプリンター用シリンダーは前年同四半期連結累計期間並みとなったがショウティックは減収となり、総じて減収となった。アルミニウム缶は小幅に減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は436億56百万円(前年同四半期連結累計期間比8.2%減)となったが、営業利益はアルミ圧延品事業等の回復もあり29億31百万円(同158.4%増)となった。

(中略)

(4)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間に発生したエチレンプラントの設備不具合による影響がなくなったこと等により、前年同四半期連結累計期間に比べ、146億10百万円の収入増加となり、170億76百万円の収入となった。

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ115億32百万円の支出増加となり、303億40百万円の支出となった。

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債(借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債)の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ48億32百万円の収入増加となり、81億67百万円の収入となった。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ10億33百万円減少し、476億46百万円となった。

## 第4【経理の状況】

(前略)

### 2 監査証明について

(訂正前)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

(訂正後)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しているが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	352,313	401,409
売上原価	295,446	354,598
売上総利益 (後略)	56,867	46,811

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	352,293	401,265
売上原価	295,426	354,453
売上総利益 (後略)	56,867	46,811

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
(前略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△19,622</u>	<u>△27,345</u>
(中略)		
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>993</u>	<u>3,190</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△12,828</u>	<u>1,088</u>
現金及び現金同等物の期首残高	<u>55,026</u>	<u>51,254</u>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1,249
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	12
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 42,198	※1 <u>53,604</u>

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
(前略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	<u>△5,796</u>
定期預金の払戻による収入	<u>814</u>	<u>2,801</u>
(中略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△18,807</u>	<u>△30,340</u>
(中略)		
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>947</u>	<u>2,802</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△12,059</u>	<u>△2,294</u>
現金及び現金同等物の期首残高	<u>54,257</u>	<u>48,679</u>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1,249
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	12
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 42,198	※1 <u>47,646</u>



【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(訂正前)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	42,413百万円	54,070百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△214	<u>△466</u>
現金及び現金同等物	42,198	<u>53,604</u>

(訂正後)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	42,413百万円	54,070百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△214	<u>△6,424</u>
現金及び現金同等物	42,198	<u>47,646</u>

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクト ロニクス	無機	アルミ ニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	70,284	<u>58,147</u>	84,349	28,654	<u>45,295</u>	65,584	<u>352,313</u>	—	<u>352,313</u>
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,311	4,570	1,060	4,261	2,287	3,195	17,684	△17,684	—
計	72,595	<u>62,717</u>	85,409	32,915	<u>47,582</u>	68,780	<u>369,997</u>	△17,684	<u>352,313</u>

(中略)

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクト ロニクス	無機	アルミ ニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	131,829	<u>56,950</u>	65,551	26,803	<u>41,006</u>	79,269	<u>401,409</u>	—	<u>401,409</u>
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,591	4,970	621	4,222	2,658	3,055	19,117	△19,117	—
計	135,420	<u>61,921</u>	66,172	31,025	<u>43,664</u>	82,324	<u>420,526</u>	△19,117	<u>401,409</u>

(後略)

(訂正後)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクト ロニクス	無機	アルミ ニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	70,284	<u>58,132</u>	84,349	28,654	<u>45,290</u>	65,584	<u>352,293</u>	—	<u>352,293</u>
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,311	4,570	1,060	4,261	2,287	3,195	17,684	△17,684	—
計	72,595	<u>62,702</u>	85,409	32,915	<u>47,577</u>	68,780	<u>369,977</u>	△17,684	<u>352,293</u>

(中略)

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクト ロニクス	無機	アルミ ニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	131,829	<u>56,814</u>	65,551	26,803	<u>40,998</u>	79,269	<u>401,265</u>	—	<u>401,265</u>
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,591	4,970	621	4,222	2,658	3,055	19,117	△19,117	—
計	135,420	<u>61,784</u>	66,172	31,025	<u>43,656</u>	82,324	<u>420,382</u>	△19,117	<u>401,265</u>

(後略)

平成29年 4月25日

昭和電工株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 園 田 博 之 ⑩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋 山 俊 夫 ⑩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 切 替 丈 晴 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている昭和電工株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、昭和電工株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成25年8月8日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年4月25日
【会社名】	昭和電工株式会社
【英訳名】	Showa Denko K.K.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 森川 宏平
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 執行役員 加藤 俊晴
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長森川宏平及び当社最高財務責任者加藤俊晴は、当社の第105期第2四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）の四半期報告書の訂正報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

## 2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。